

令和2年7月豪雨による現地調査 (大分県日田市赤岩)

令和2年7月豪雨により甚大な被災が生じた国道210号の復旧にあたり、全体の被害状況等を踏まえ、特に緊急性・重要度の高い被災箇所に対して速やかに対策を行うため、有識者の方々から専門的な知見を求めることを目的に対策検討委員会を設立しました。令和2年7月12日11:00～第1回対策検討委員会を開催しました。

出席者:大分大学 鶴成准教授

● テックドクターによる現地調査



▲被災箇所の現地調査状況



▲TEC-DOCTORとの打ち合わせ



▲対策検討委員会状況

【赤岩地区崩落の原因】

○7/6日の雨により玖珠川の水位が上がり、その水位が一旦下がって擁壁下の土砂が吸い出され、7/7の雨で再度水位が上昇し、再度水圧がかかったこと。

また、山側からの出水による土砂流出の両方の原因が考えられる。

【当面の対策】

○玖珠川の流芯が水衝部である崩落面となっているので、消波ブロックの設置などで流芯をずらす対策がまず必要。その後の仮復旧は、普通の大型土嚢では再度流される可能性もあり、玉石を混ぜた土嚢の設置や、土嚢設置後、コンクリート等で固定する対策が必要。

○大型土嚢の上に、大型車も通行する仮設道路を設置することや、山側に仮設道路を設置することになるので、山側からの出水に配慮する必要があるため、仮復旧した後も、観測員を配置するなど常時観測することが必要。